

B.C.300	弥生時代前期	弥生文化がおこり、水稻耕作と金属器の使用がはじまる
		前期末～中期初頭ころ、県内に弥生文化が伝播する(①205)(緒立遺跡)
		大形壺形土器に人骨を再埋葬する再葬墓が営まれる(①214)(村尻・六野瀬・猫山遺跡)
B.C.100	中期	櫛描文土器が盛行する(①225)(下谷地・下畑玉作・新穂玉作遺跡)
		農耕集落が形成される(①218)
		佐渡を中心に玉作が行われる(①252)(新穂玉作・下畑玉作遺跡)
		土壙墓・木棺墓・方形周溝墓がつくられる(①242)(下谷地・下畑玉作遺跡)
		渦文・菱形文・縄文を施した東北系の土器が伝わる(①228)(山草荷遺跡)
		県北を中心に縄文と沈線文を施した東北南部の天王山系の土器が伝播する(①229)(滝ノ前・砂山遺跡)
A.D.200	後期	無文または刷毛目文が施された壺形・甕形土器・長頸壺などがみられ、土器が斉一性をもち地方色を失う(①245)(六地山・内越遺跡)
		環濠をもつ高地性集落が営まれる(①247・284)(斐太遺跡)
		北海道の後北C1式土器がもたらされる(①229・246)(内越遺跡)
		S字状スタンプ文土器が山陰地方からもたらされる(①245)(狐崎・大沢遺跡)
		木製農具や矢板・坑列を用いた農耕遺構がみられる(①230)(千種遺跡)
		占いにト骨が用いられる(①244)(せこの浜洞窟遺跡)
		西日本に畿内を中心とした連合体が形成される